

## 地域医療支援病院の名称使用承認について

日本医科大学武蔵小杉病院から地域医療支援病院と称することの承認申請書が提出され、要件を満たしていることから、承認することとしてよいかご協議をお願いいたします。

## 目次

1. 地域医療支援病院制度の概要
2. 協議案件における要件の適合状況
3. 協議事項
4. 今後のスケジュール
5. 【参考】川崎市内の地域医療支援病院

# 1. 地域医療支援病院制度の概要

## 趣 旨

医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有するものについて、都道府県知事が個別に承認するもの。

## 主な機能

- ・ 紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）
- ・ 医療機器の共同利用の実施
- ・ 救急医療の提供
- ・ 地域の医療従事者に対する研修の実施

## 承認要件

- ・ **開設主体**：原則として国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等
- ・ **紹介率**：紹介患者中心の医療を提供していること。具体的には、次のいずれかの場合に該当すること。
  - ア) 紹介率が80%以上であること
  - イ) 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること
  - ウ) 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること
- ・ **共同利用**：建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること
- ・ **救急医療**：救急医療を提供する能力を有すること
- ・ **研修**：地域医療従事者に対する研修を行っていること
- ・ **病床数、構造設備**：原則として200床以上の病床、及び地域医療支援病院としてふさわしい施設を有すること 等

## 2. 協議案件における要件の適合状況①

医療機関名	日本医科大学武蔵小杉病院
開設場所	川崎市中原区小杉町1-383
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、新生児内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、内分泌外科、小児科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、病理診断科、救急科、麻酔科、放射線治療科、精神科、老年神経内科、歯科、リハビリテーション科、緩和ケア内科

### 【適合状況の詳細】

項目	状況	適否
(1)開設者	学校法人日本医科大学	○
(2)紹介率	紹介率：67.6%、逆紹介率：50.3%	○
(3)共同利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用対象：登録医として登録した医師及び歯科医師</li> <li>○対象施設：第1・第2会議室（講義室）、臨床研修図書センター（図書室）、room7（研究室）、相談室1（診療録閲覧室）、診療録システム 他</li> <li>○対象機器：単純エックス線撮影装置、コンピューター断層撮影装置、磁気共鳴診断装置、ラジオアイソトープ装置、超音波診断装置、内視鏡検査装置、骨密度測定装置</li> <li>○常時共同利用可能な病床数：3床</li> <li>○令和5年度実績：77件</li> </ul>	○

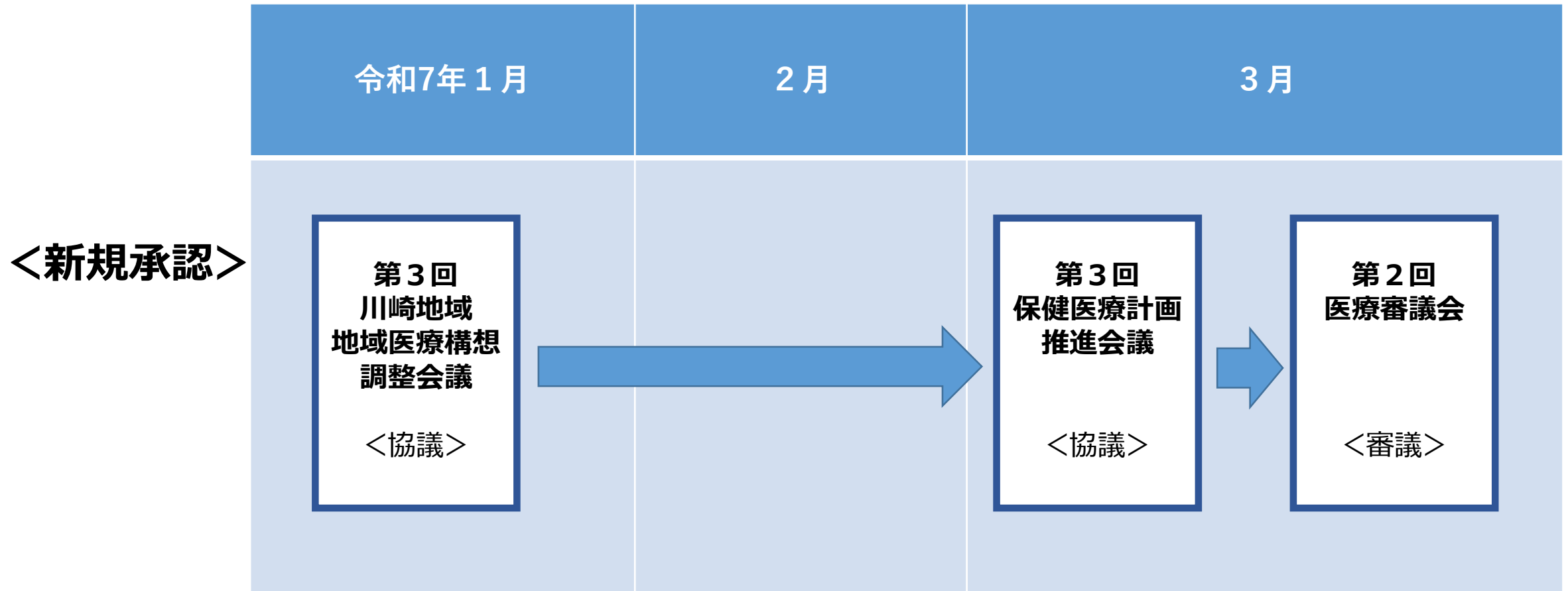
## 2. 協議案件における要件の適合状況②

項目	状況	適否
(4) 救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急告示病院</li> <li>○救命救急センター</li> <li>○重症救急患者受入対応医療従事者：常勤医師244名、常勤看護師196名 他</li> <li>○重症救急患者のために優先的に使用できる病床：35床（うち専用病床35床）</li> <li>○救急用又は患者搬送用自動車：2台</li> <li>○検査・診療施設：救命救急センター、ICU病棟、検体検査室、細菌検査室 等</li> <li>○令和5年度実績：救急用患者輸送用自動車により搬入した救急患者数5,502名 それ以外の救急患者数8,352名（合計13,854名）</li> </ul>	○
(5) 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○設備：第1・第2会議室（講義室）、臨床研究図書センター（図書室）、 room7（研究室） （主な設備：スクリーン、プロジェクター、マイク、ホワイトボード 等）</li> <li>○内容：症例検討会、医療連携懇親会、腹膜透析セミナー、薬薬連携の会 等</li> <li>○令和5年度開催実績：13回</li> </ul>	○
(6) 病床数、 構造設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病床数：病床総数372床（一般：372床）</li> <li>○構造設備：ICU、検体検査室、細菌検査室、病理検査室、解剖室、room7（研究室）、第1・第2会議室（講義室）、臨床研修図書センター（図書室）、救急用自動車、薬品情報室</li> </ul>	○

### 3. 協議事項

日本医科大学武蔵小杉病院から、地域医療支援病院と称することの承認申請書が提出され、要件を満たしていることから、**承認することとしてよいか**ご協議をお願いいたします。

# 4. 今後のスケジュール



## 5. 【参考】県内の地域医療支援病院①

医療圏	病院名（令和7年1月1日現在 44箇所）	承認年月日
横浜	済生会横浜市南部病院	H15.9.29
〃	けいゆう病院	H16.11.8
〃	横浜市立市民病院	H18.9.22
〃	横浜労災病院	H19.9.26
〃	国立病院機構横浜医療センター	H19.9.26
〃	横浜市立大学附属市民総合医療センター	H19.9.26
〃	済生会横浜市東部病院	H20.9.24
〃	横浜市立みなと赤十字病院	H21.2.23
〃	横浜栄共済病院	H21.10.19
〃	県立こども医療センター	H22.4.1
〃	県立循環器呼吸器病センター	H22.4.1
〃	菊名記念病院	H22.10.26
〃	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	H22.10.26
〃	昭和大学横浜市北部病院	H23.10.3
〃	横浜南共済病院	H24.10.10



## 5. 【参考】 県内の地域医療支援病院②

医療圏	病院名（令和7年1月1日現在 44箇所）	承認年月日
横浜	昭和大学藤が丘病院	H27.11.6
〃	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院	R2.4.13
〃	社会福祉法人親善福祉協会 国際親善総合病院	R2.11.12
〃	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院	R3.12.1
川崎北部	川崎市立多摩病院	H23.2.16
〃	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院	H30.3.16
川崎南部	関東労災病院	H18.9.27
〃	川崎幸病院	H25.4.1
〃	川崎市立川崎病院	H28.3.1
〃	川崎市立井田病院	R6.3.29
相模原	相模原協同病院	H15.10.24
〃	国立病院機構相模原病院	H23.9.30
横須賀・三浦	横須賀共済病院	H16.3.31
〃	横須賀市立市民病院	H18.9.21
〃	横須賀市立うわまち病院	H21.10.28

## 5. 【参考】 県内の地域医療支援病院③

医療圏	病院名（令和7年1月1日現在 44箇所）	承認年月日
横須賀・三浦	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院	R2.3.27
湘南東部	藤沢市民病院	H12.4.21
〃	茅ヶ崎市立病院	H24.3.8
湘南西部	平塚共済病院	H15.10.6
〃	国立病院機構神奈川病院	H21.10.21
〃	平塚市民病院	H24.9.19
〃	神奈川県厚生農業協同組合連合会伊勢原協同病院	R1.11.20
〃	秦野赤十字病院	R5.11.9
県央	海老名総合病院	H20.2.27
〃	東名厚木病院	H23.2.15
〃	厚木市立病院	H28.11.7
〃	大和市立病院	R1.11.29
県西	小田原市立病院	H21.10.21
〃	県立足柄上病院	R3.3.26

令和6年度第3回川崎地域地域医療構想調整会議  
参考資料

日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項

# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項①

## 補足事項①

厚生労働省の地域医療支援病院制度の趣旨に則り、日本医科大学武蔵小杉病院はそれにふさわしい病院であると考えております。全職員が一丸となり地域医療支援病院としての要件を達成し今後さらに努力し地域医療支援病院の名称使用に恥じない実績を更に積み上げてまいります。

➤ 川崎市には川崎市立井田病院、関東労災病院、川崎市立多摩病院、川崎幸病院、川崎市立川崎病院、新百合ヶ丘総合病院と6つの地域医療支援病院があります。

➤ それぞれ 中原区、多摩区、幸区、川崎区、麻生区に位置し、高津区と宮前区にはありませんが、隣接する中原区と多摩区の病院が兼務する形になっています（図1参照）。



# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項②

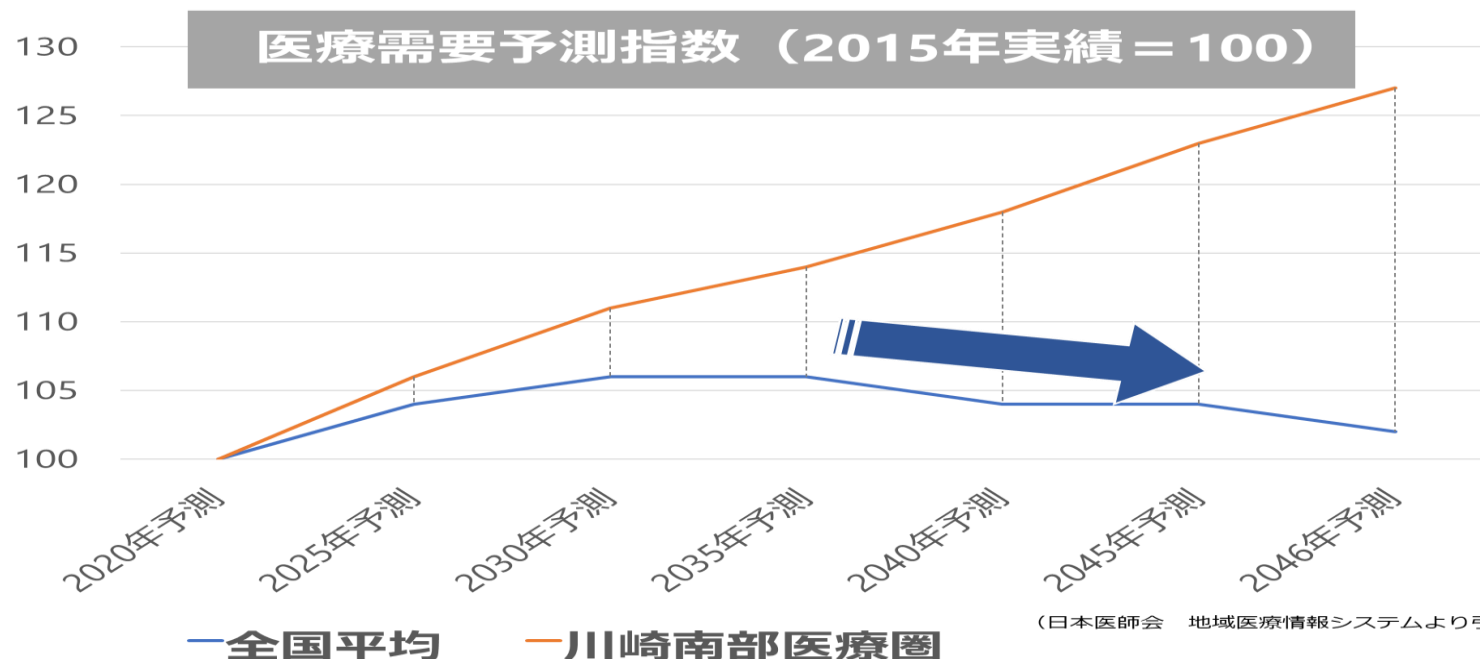
## 補足事項②

当院のある武蔵小杉地域は川崎南部医療圏に位置します。全国的には人口減少が進むなか、当地域は2040年までは人口増加が見込まれています。人口増加の割合は川崎市南部医療圏の中で中原区が最も高く、さらに川崎南部医療圏における医療需要指数は全国平均が2030年以降は低下するとの予測のなか、2030年以降も増加することが予測されています。

(図2参照)

## 図2

武蔵小杉地域(川崎市南部医療圏) の特性～増え続ける武蔵小杉地域の医療需要～

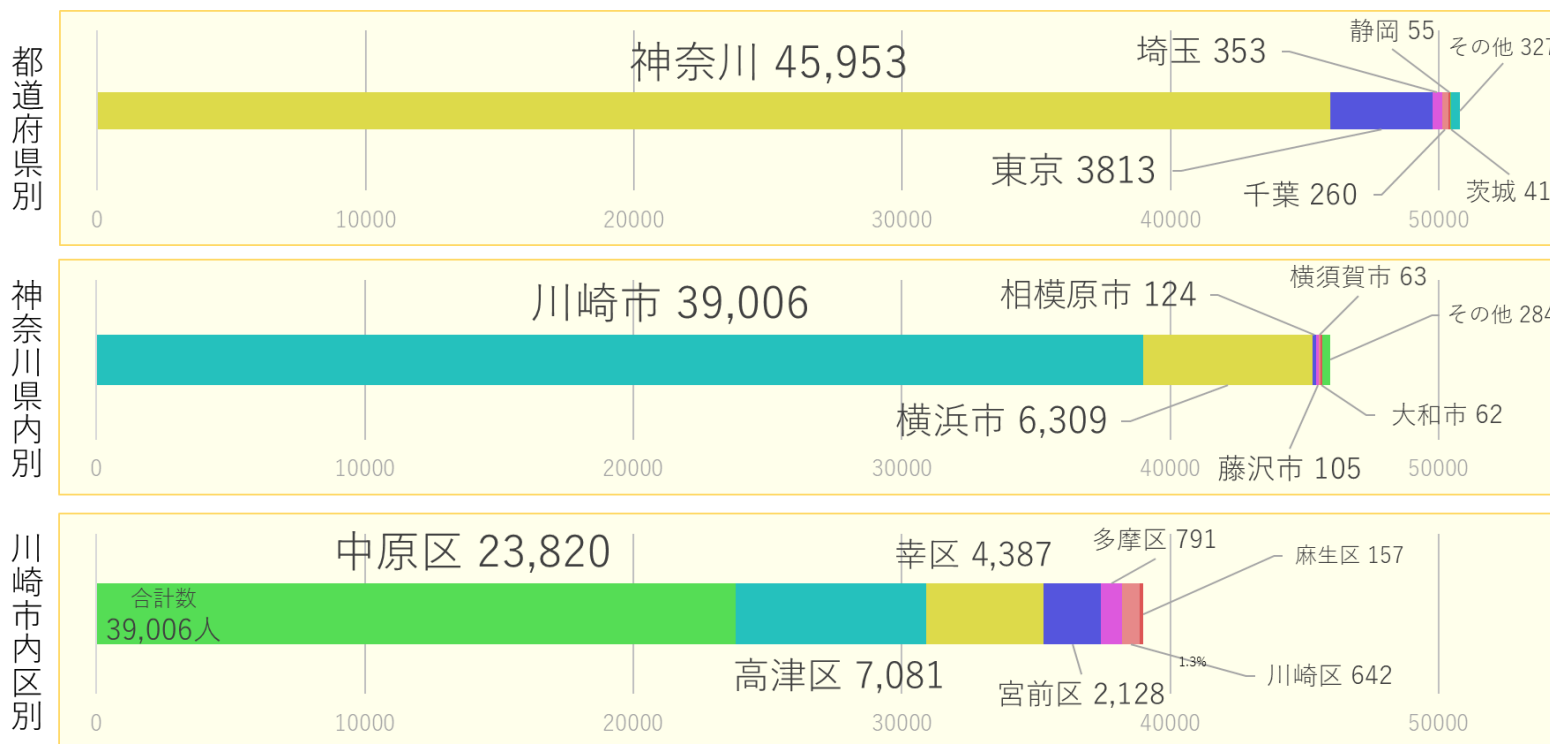


# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項③

## 補足事項③

当院の入院における患者割合は、神奈川県内川崎市に居住される方がその多くを占めています。川崎市内区別で見ると、中原区、高津区に居住される方がおよそ8割を占めています。（図3参照）

図3 当院の地域別 入院患者数実績(2022年度)

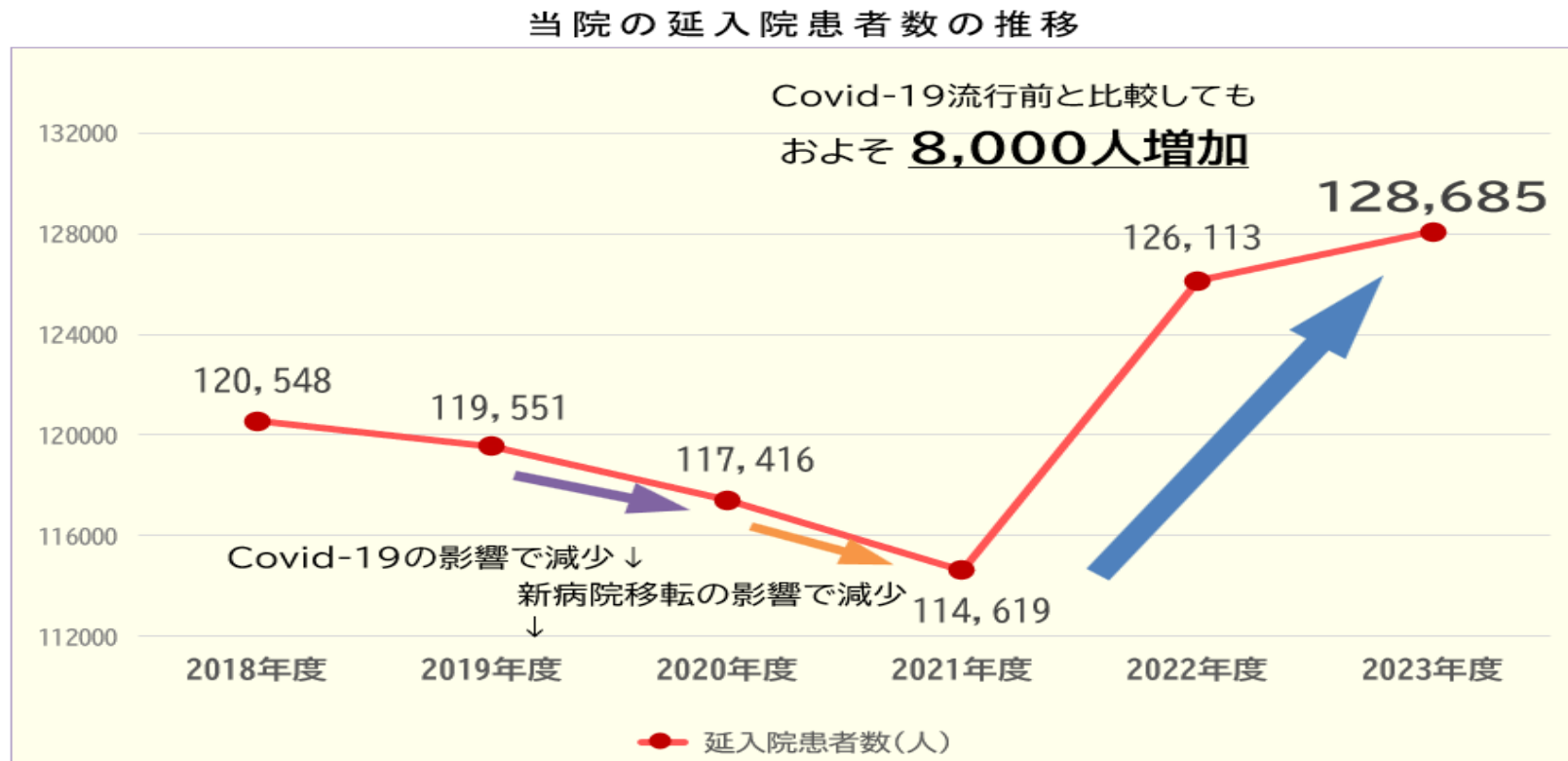


# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項④

## 補足事項④

当院の入院患者数は2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でやや減少し、2021年度は新病院移転の影響でさらに減少しましたが、2022年度以降は新型コロナウイルス感染症流行前と比較し、**およそ8000人増加し12万8000人**となりました。病床稼働率にすると94%となります（図4参照）。現在もなお、**感染症患者に対する診療と両立**し、高い病床稼働率を維持しています。

図4

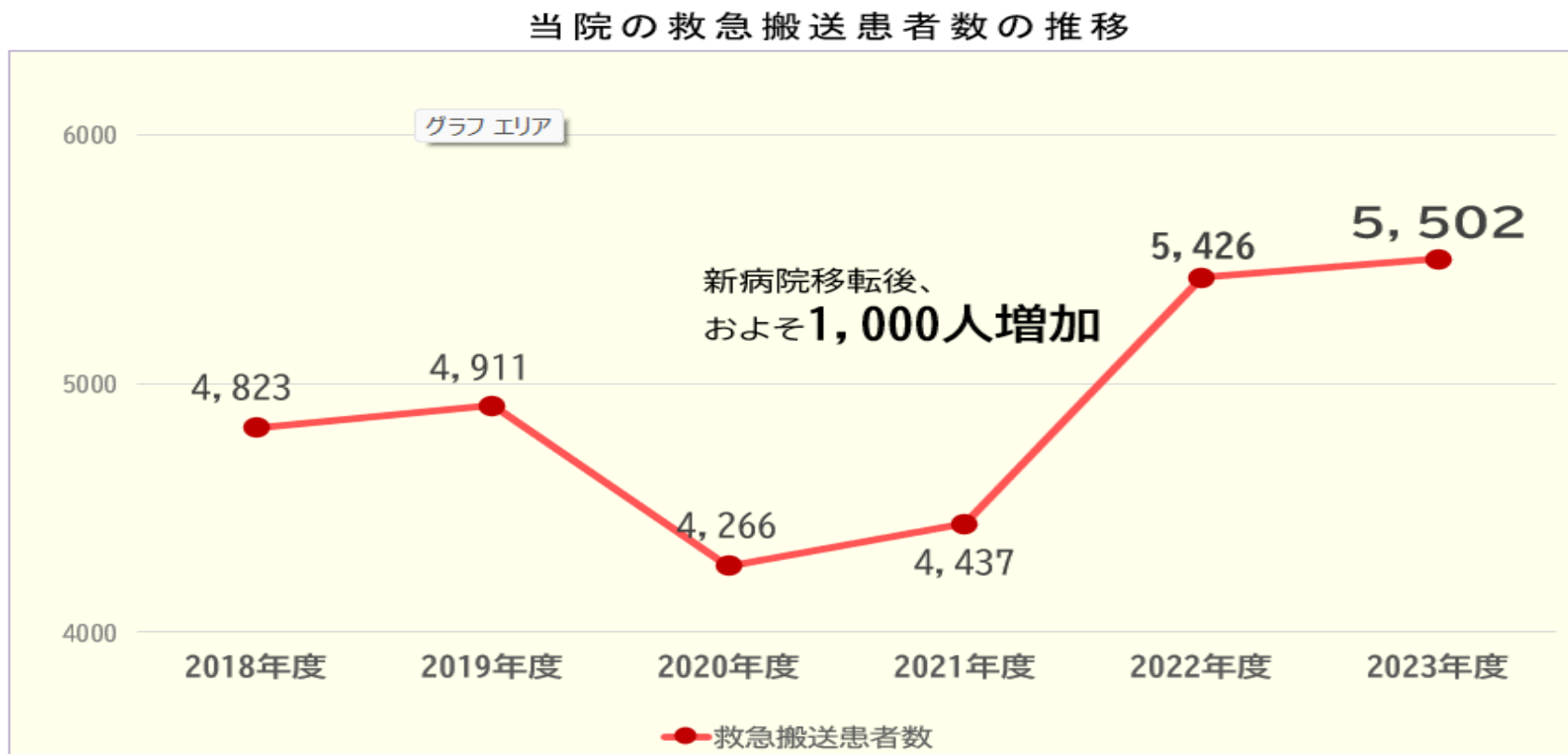


# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項⑤

## 補足事項⑤

昨年度の当院の救急搬送患者は新病院移転後およそ1000人ほど増加し、年間5,502人の患者を受け入れています（図5参照）。『最後の砦』を合言葉に地域の救急医療を支えています。

図5



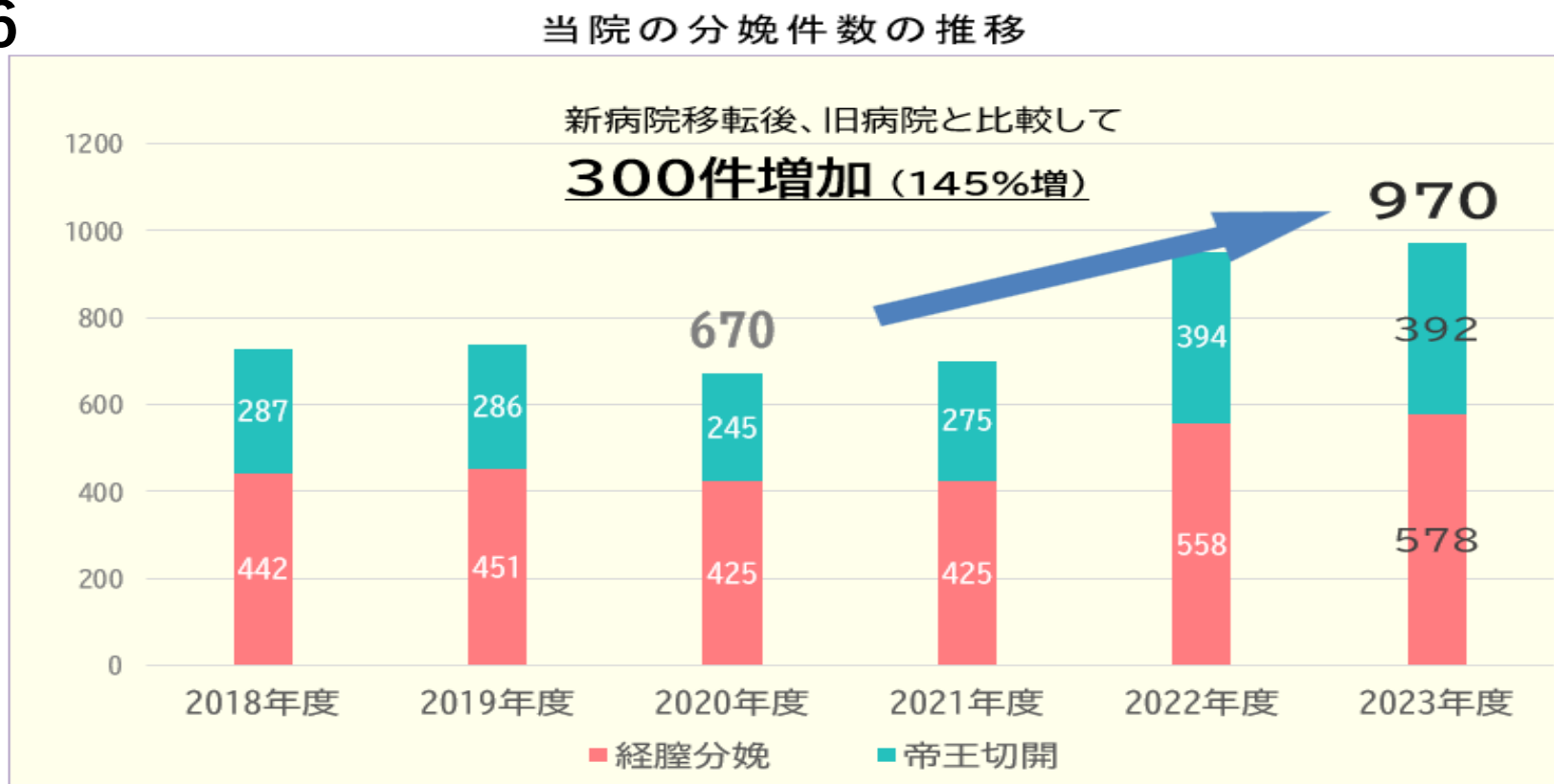


# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項⑥

## 補足事項⑥

昨年度の分娩数は経膈分娩578件、帝王切開392件、**合わせて970件**で旧病院時代と比較して300件増加しております。**少子化が進む中で分娩数の増加は、当院が周産期医療を充実させた成果**と考えています（図6参照）。

図6



# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項⑦

## 補足事項⑦

川崎市における小児救急医療体制ですが、川崎市北部エリアに多摩休日夜間急患診療所、南部エリアには川崎市立川崎病院があり（図7参照）、そして中部エリアでは当院がその役割を果たしています（図8参照）。

図7

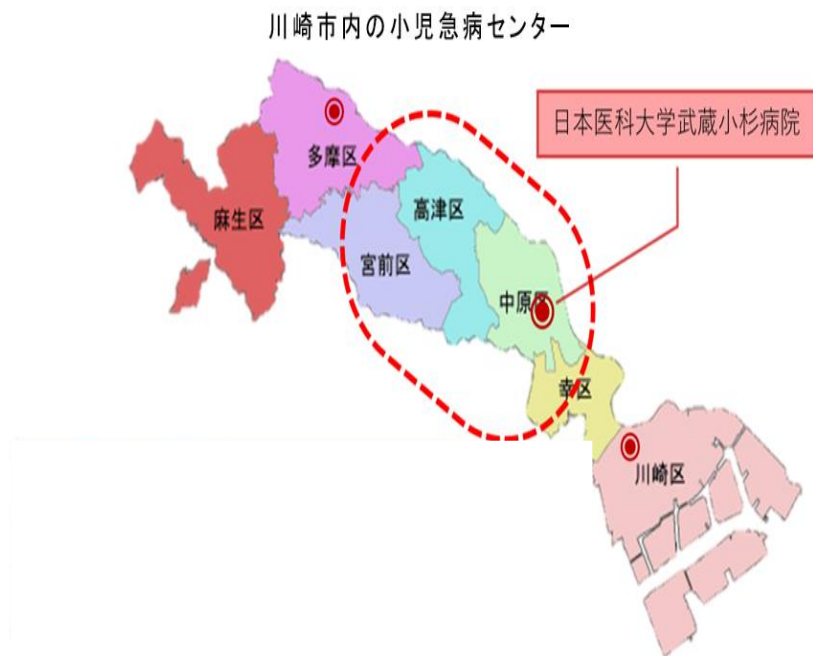
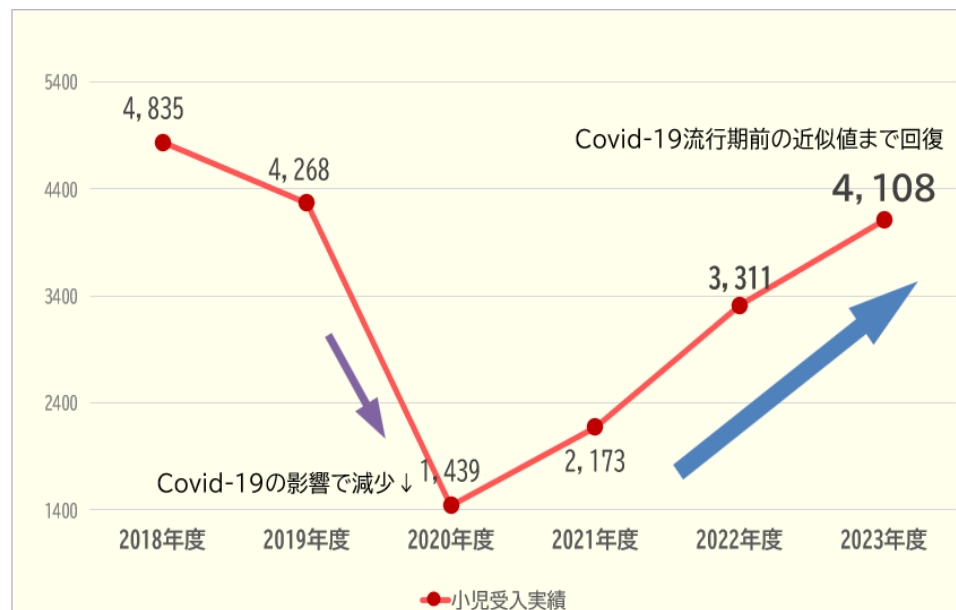


図8

小児急病センターにおける受入実績の推移



(参考) 北部受入実績	2, 4 1 9 人 (2021年度)
(参考) 南部受入実績	5, 3 4 2 人 (2021年度)

# 1. 日本医科大学武蔵小杉病院からの補足事項⑧

## 補足事項⑧

(まとめ)

### ○救急、小児、周産期と災害医療体制の更なる充実

- ・各分野について質の高い医療提供体制の充実に向け一層邁進してまいります。
- ・新興感染症や大規模風水害の発生時などの有事においても、迅速かつ円滑に医療機能の確保ができるよう引き続き努めてまいります。

### ○地域医療連携を強化（紹介率・逆紹介率の更なる向上等）

- ・紹介・逆紹介の推進、医療機器の共同利用、医療従事者に対する研修の実施などを通じ、第一線の地域医療を担うかかりつけ医を支援してまいります。

### ○高度・先進医療を提供する地域中核病院として役割

- ・医療機能の分化・連携を推進し、地域医療に貢献してまいります。